

令和8年熊本地震災害支援スカウト宣言

このジャンボリーに来る前、私たちはニュースで熊本地震のことを知っていました。大きな地震が起き、大変な思いをしている人がいることも知っていました。しかし、どのような生活をし、どのような気持ちでいるのか、そこまでは想像できていませんでした。ジャンボリーが始まり、私たちは全国から集まった仲間と出会い、笑い、語り合い、たくさんの時間を一緒に過ごしてきました。

そして8月7日のお昼に、私たちはそれぞれの隊で、熊本地震について考えました。一緒に生活している仲間と話すなかで、熊本地震をこれまでよりも、身近で起きたことのように感じました。そして、熊本からこのジャンボリーに参加している仲間たちのことを知りました。熊本の仲間たちのほとんどが地震を経験し、中には自宅が被害を受けた仲間や、ジャンボリーへの参加を悩んだ仲間もいました。今も水道が復旧していない家庭もあります。それでも、熊本の仲間たちはこのジャンボリーに参加し、私たちとともに活動しています。そんな熊本の仲間たちの、「みんなの応援に、笑顔でこたえるからね」という言葉が、私たちの心に残りました。笑顔でジャンボリーを楽しんでいても、その心の中には、家族への心配や、これからの生活への不安もあると思います。私たちは笑顔だけを見て「もう大丈夫」と思うのではなく、その人のことを知り、その人の気持ちを考えることが大切なのだと気づきました。

今回は、熊本で起きた地震でした。でも今日ここには、これまでの地震や災害で、つらい思いをした仲間もいます。そして災害はこれからも、いつ、どこで起きるのかわかりません。だから私たちは、ここで感じたことを、熊本だけのことにはしません。

「相手のことに関心を持つ。」

「その人の状況を知ろうとする。」

「その気持ちを思いやる。」

そして「ひとごと」にせず、私たちにできることを考え、行動する。

さらに、このジャンボリーで感じたことを、ジャンボリーに参加できなかった、全国のボーイスカウトのそれぞれの仲間へ、伝え、つないでいきます。第19回日本スカウトジャンボリーに参加した私たち、ここにいる全員の次の挑戦は、仲間を思い、支え合い、自分たちにできることを行動に変えていくことです。ここ神石で感じたことを忘れず、仲間とともに、未来への一步を踏み出すことを、ここに宣言します。

令和8年8月9日 第19回日本スカウトジャンボリー閉会式にて

本宣言は、8月7日（金）の「第19回日本スカウトジャンボリー 令和8年熊本地震 Thinking Day」において各派遣隊が「ジャンボリーが終わり地元に戻った後、被災地のために自分たちができること」をディスカッションし、考えたアクションを集約し、代表スカウト2名が若手指導者の支援を受けながら自分たちの言葉で作成して閉会式において発表したものです。